思春期喘息患者における欲求特性について

ＥＰＰＳ検査において一貫性得点の低い症例に関する臨床的検討

杉山祐司[1)]、林雅次[1)]、篁一誠[1)]、山崎晃資[1)]、渡辺千秋[2)]
山本博章[3)]、若山和子[4)]、野上哲夫[5)]

要約：従来のＥＰＰＳ検査においては、一貫性得点の低い者は検査の信頼度の問題から除外されることになっているが、今回我々は一貫性得点の低い者に着目し思春期喘息患者と一般高校生における出現頻度について比較検討した。その結果、思春期喘息患者群の方が一貫性得点の低い者が有意に多く認められた。

見出し語思春期喘息患者、欲求特性、ＥＰＰＳ検査、一貫性得点

１．研究目的

ＥＰＰＳ検査（Edwards Personal Preference Schedule)を用いて、我々は思春期喘息患者の 欲求特性と一般高校生の欲求特性とを比較検討した。これまでの先行研究によると、一般高校生においては、男子、女子とも「顕示」「親和」「求護」の項目が有意に高値であり、女子ではさらに「変化」の項目が高値であったが、思春期喘息患者においては、「追従」「顕示」「親和」「養護」の項目が高値であった。従来の研究では、一貫性得点の低いものは、検査の信頼度の問題から除外することになっているが、適応に困難をきたしている思春期喘息患者の臨床経験からは自己同一性形成にかかわる問題として再検討することが重要と考えられた。本研究では、思春期喘息患者と一般高校生の中で一貫性得点の低い者の出現頻度について比較検討した。

＜ＥＰＰＳ検査について＞

本検査は、欲求面を測定する検査であり、「達成」「追従」「秩序」「顕示」「自律」「親和」「内面認知」「求護」「支配」「内罰」「養護」「変化」の１５の欲求特性があり、これらの特性について、それぞれ９つずつ問題文が用意されている。計１３５の問題文については、社会的望ましさの程度が測定されており、それらは１点から９点の間で、social desirability得点（ＳＤ得点）として示される。実際の検査用紙では、社会的

１）東海大学精神科　２）水戸城南病院小児科　３）川崎協同病院小児科　４）国立療養所神奈川病院小児科５）日製水戸病院小児科

望ましさ、すなわちＳＤ得点ができるだけ同じものを対にして構成されている。

本検査方法は、異なる特性に属する２つの問題文によって各項目が構成され、被検者に自分の気持ちに近いものいずれかを選択させるようになっている。本検査方法の特徴でもあるが従来の質問紙法のように、社会的に望ましいとされる答えに被検者が引きずられる傾向を避けることができるように工夫されている。

＜一貫性得点について＞

ＥＰＰＳ検査は２２５項目のうち１５対の同一設問が一定の間隔をおいて２回提示されている。これらの同一設問において同じ答え方をしているかどうかによって被検者の回答傾向の一貫性を評価できる。一貫性得点はそれら１５項目すべてが同じ答え方をしていれば１５点、全く違う答え方をしている場合は０点であり、cut off水準は１０点に設定されている。すなわち９点以下は、一貫性得点が低いとされ、これは検査態度に一貫性がないことと解釈される。今までのＥＰＰＳ検査においては、一貫性得点が９点以下のものは、検査の信頼性がないということで検査対象から除外されていた。

２．方法・対象

本研究は、１２才から１８才までの思春期喘息患者５３名（男子３１名、女子２２名）を対象とし、これと比較するために、我々が昨年度都内の高校生１５１０名（男子２２７名、女子１２３３名）に対して行なった検査結果を比較対照群とした。一貫性得点９点以下のものを抽出し、X^2検定を用いて比較検討した。＜表１参照＞

３．結果

一貫性得点の低い者は思春期喘息患者５３名中１０名（１８．９％）、一般高校生１５１０名中６６名（４．３％）であり思春期喘息患者で有意に多く認められた。（Ｐ＜０．００１）さらに性差でみると、一貫性得点の低い者は、男子喘息患者中３１名中７名（２２．６％）、男子一般高校生は２２７名中２３名（８．３％）であり、女子喘息患者は２２名中３名（１３．６％）、女子一般高校生は１２３３名中４３名（３．５％）であり、同様の結果が得られた。＜表２、グラフ１、２、３参照＞

４．考察

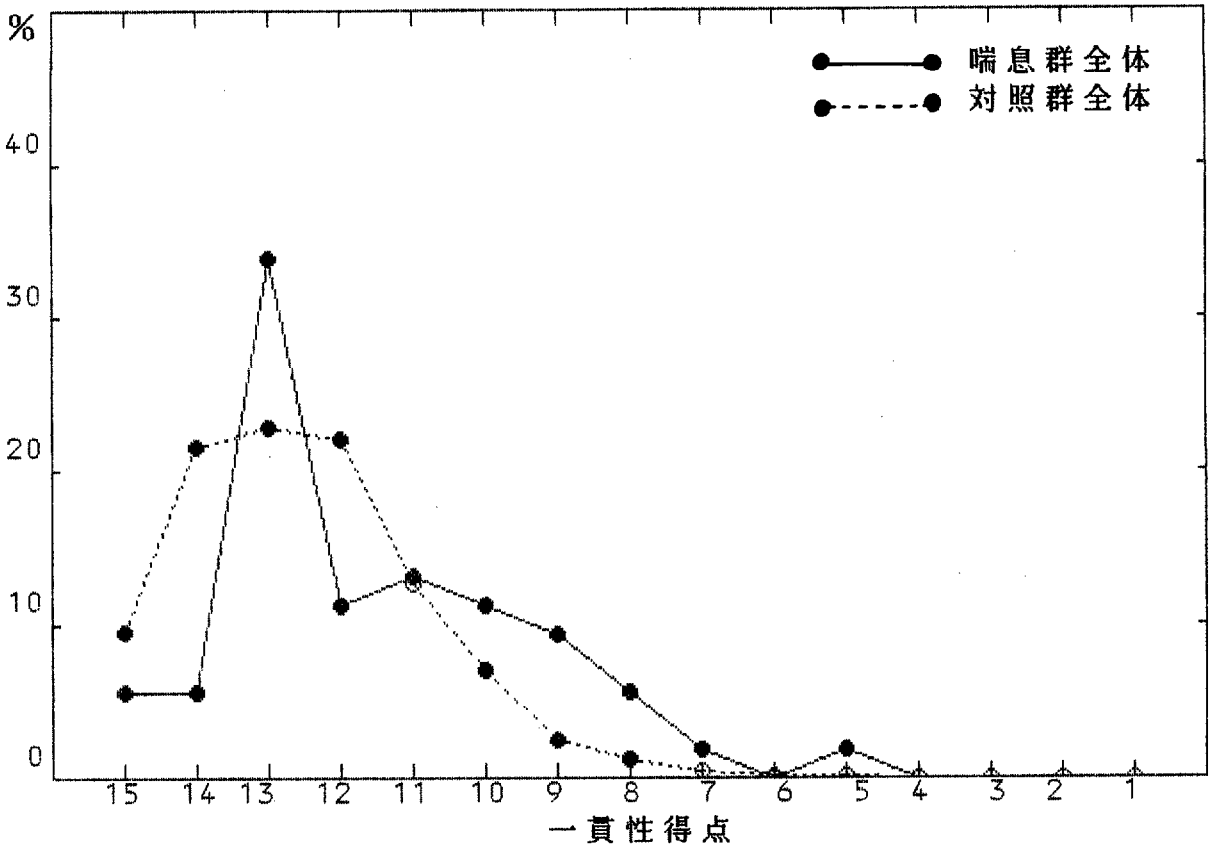
今回の研究では、今まで検査の信頼性の問題から除外されてきた一貫性得点の低い者についての比較検討を行なった。一般高校生と比べ思春期喘息患者では、ＥＰＰＳ検査における一貫性得点が有意に低いことが明らかにされた。このことから思春期喘息患者は、一貫性得点の低い要因の一つとして想定される自己同一性形成にかかわる問題が関与していると考えることができる。今後さらに一貫性得点の低いことの意味を検証していく必要があると考えている。

表 1　　年齢比較

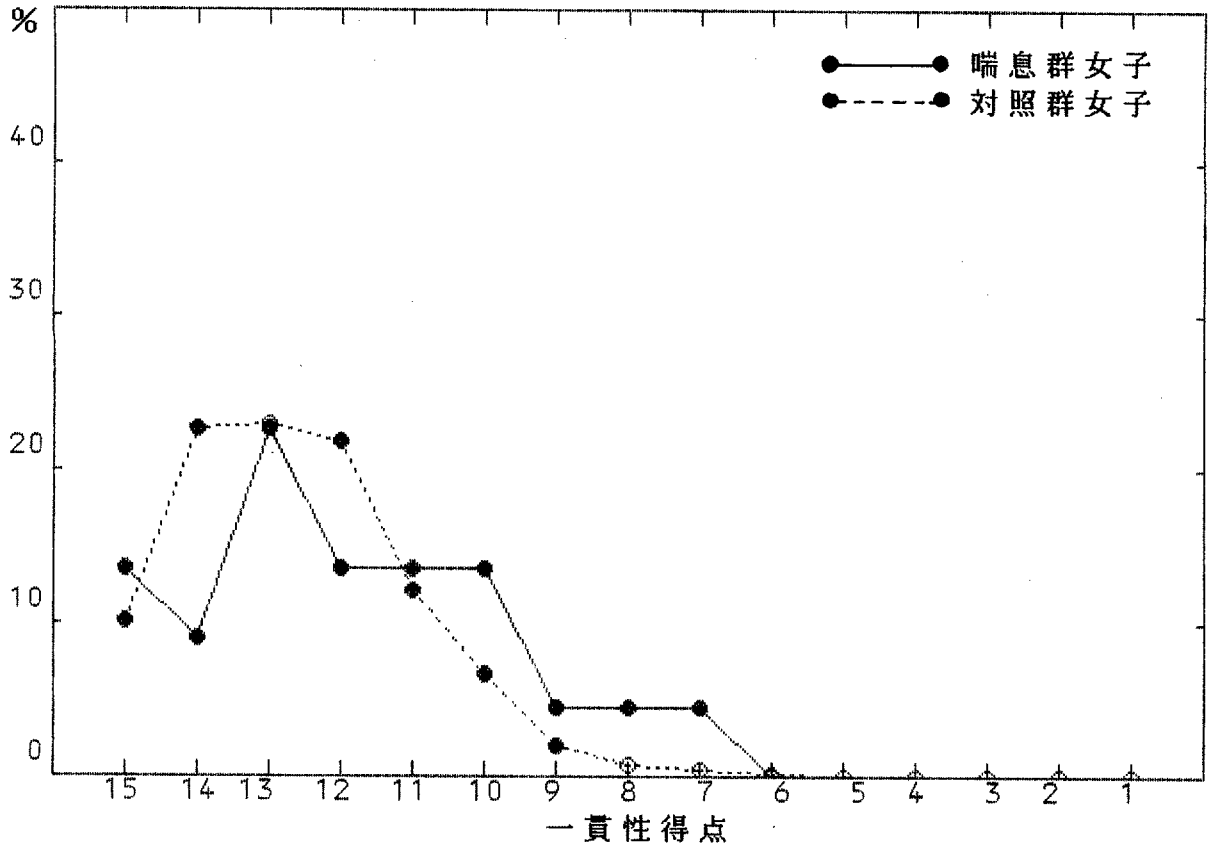
群		総　数	平均年齢
喘息群	男子	31名	14.16 歳
	女子	22名	15.14 歳
対照群	男子	277名	15.07 歳
	女子	1233名	15.84 歳

表 2　　一貫性得点比較

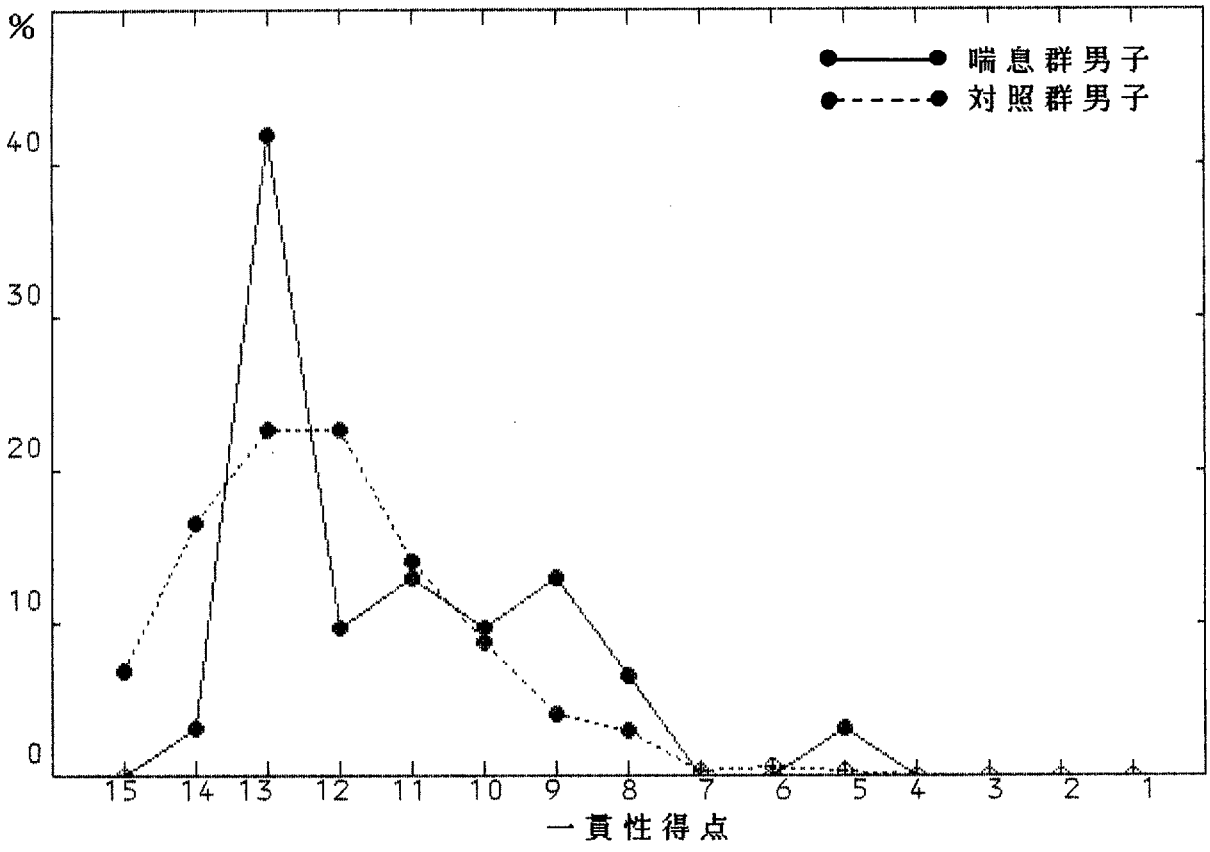
群		総　数	一貫性得点 9点以下人数
喘息群	男子	31名	7名（22.6%）
	女子	22名	3名（13.6%）
	全体	53名	10名（18.9%）
対照群	男子	277名	23名（ 8.3%）
	女子	1233名	43名（ 3.5%）
	全体	1510名	66名（ 4.3%）



グラフ1　喘息群全体と対照群全体の得点分布



グラフ２　喘息群女子と対照群女子の得点分布



グラフ３　喘息群男子と対照群男子の得点分布

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約、従来の EPPS 検査においては、一貫性得点の低い者は検査の信頼度の問題から除外されることになっているが、今回我々は一貫性得点の低い者に着目し思春期喘息患者と一般高校生における出現頻度について比較検討した。その結果、思春期喘息患者群の方が一貫性得点の低い者が有意に多く認められた。